

令和 3 年11月19日 議会改革特別委員会 議事録
10時00分 開会

○出席委員 (8 人)

委員長 網谷 芳孝

副委員長 西村 一啓

委員 藤川 和弘、原田 孝徳、小中真樹雄、小田上尚典、北地 範久、
日域 究

議長 賀屋 幸治

○欠席委員 なし

○網谷委員長 皆さんおはようございます。

時間となりました。定足数に達していますので、ただいまより議会改革特別委員会を開会いたします。

議長は遅れるそうなので、よろしくお願いいたします。

それでは日程第 1、活動方針及び活動計画なんですが、まず第一に、今までの委員会の協議の中でおおむね決まったことを、確認という意味でお伺いします。

まず 1 点目の、議員定数問題を軸とする協議が決定され、ほかの項目も必要なら変更して協議をするということでございます。

それから 2 点目の、定数問題は来年12月議会をもって決定とするということでございます。

それから 3 点目の、定数問題に特化した意見を会派として文書にして提出いただきますということで、今日は皆さん提出していただいておりますので、あとは簡単に説明していただければと思います。

それから項目15の中で、委員で集約できるものがあれば集約するというところでございましたが、副委員長と話し合った結果、皆さんそれぞれがよく吟味して項目を出されたので、これを編成というんですか、我々正副委員長で、省くという言い方は悪いかも分かりませんが、難しいということで、15の項目はそのままにしております。

この中に前委員会のメンバーの方々 が 6 人おられますので、これはいいよと言われれば、この場で編成といいますか、集約ができればと思います。

それから項目番号 5 番目の、議員定数問題アンケートという項目の簡素化という意見が出ましたが、副委員長と相談しまして、表を見ていただいたら分かりますが、議員定数についてという、本当に簡単にさせていただきました。

それから、備考欄に置いておりました、私が最初に案の中で言葉を使いました決定という言葉が、これは合わないのではないかとということで、実施をされとるということで、実施という言葉を使わせていただきまして、これも検証のほうしていかなければならないのではないかとということで、実施、また検証ということで、表の中に示しておると思いますので、そちらのほうも確認していただければと思います。

以上が、今まで協議の中で大体、おおむね決まった項目を上げさせていただきましたが、これについて何か意見があれば、ここが違うよ、これはまだ変えなければいけないとかいうところがあれば、示していただければと思います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○網谷委員長 ないようでしたら、このままの大きな項目といいますか、これに沿って来年の令和4年12月定例会に結論を出したいと思います。

12月といいましてもいろいろ手続があるかと思うので、来年の令和4年10月の委員会までには決定をして、それからもうあとは手続の中になろうかと思うので、今回を含めて12回の委員会がございますが、その辺のところをお見知りおきのところをよろしくお願いします。

また後半になりまして、いろんな意見が出まして、これは委員会だけでは足らんよということになれば、その都度協議会なり、会を増やしていければと思います。

要するに10月ぐらいまでに結論を出して、12月議会で決定をするという運びで私は考えておりますが、何か意見があれば言っていただければと思います。

小田上委員。

○小田上委員 前回も12月までについてという話は出てたと思うので、改正の条文を考える中でも10月までについていうのは分かります。今後そのスケジュールについての、お尻が決まったので、中のところについていうのは、また詳しく委員長から提示があるってということですかね。

○網谷委員長 ありがとうございます。

提示があるというよりは、皆さんの文書を読ませていただきましたら、いろんな意見が出ております。スケジュール的なこととか、本筋に入っている方とかいろいろありますので、私の一存というわけにはいきませんので、その中でまた協議していただいたらと思いますので、その辺のところよろしいでしょうかね。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○網谷委員長 ほかに何かあります。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○網谷委員長 なければその辺のところ、先ほど申しました15項目の中で集約という、前回の委員会の中でどうだったかということでありましたが、これももう集約のしようがない、15項目そのまま入れとって、必要とあらば協議をするということによろしいですかね。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○網谷委員長 それでは、項目はそのまま15に置いておくことにします。よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○網谷委員長 それじゃあそのように決めさせていただきます。

次に、これまで資料の提供をいただいております小中委員と北地委員に、簡単に、今回小中委員にはまた新たに資料を御提供いただきまして、本当にありがとうございます。

そのようなことで、簡単に資料の説明をしていただいたらと思いますが、よろしいでしょうか。

小中委員。

○小中委員 前回提供した資料は、日本国勢図会から、人口2万人前後の市から4万未満の市をピックアップして、それを全部面積・人口・議員定数、前回の選挙がどうだったかと、無投票とかそういうような定数、それで定数がどのようになったかというそういう変化と、それと最後に議員報酬。議員報酬は全部、議員報酬条例っていうのが各市、全部ネットで検索すれば出るようになっておりますので、それで全部、個々に手書きとかメモして、それを全部自分で手打ちしたものです。

だから、それは結局大竹市の月額37万円という報酬がどういうもんかという、どの程度なのかというのを知ってもらい意味もありまして、前回申しましたように、広島県でそのレンジに当てはまる市の中では、報酬は最高ですね。一番高くて、40万円を超えるっていうのはそんなになくて、多くの市、例えばここ、釜石市議会だよりっていうのを出したら、新日鉄釜石ラグビーの、あの有名な釜石でさえ議員報酬31万3,000円ですから、大竹市が決してそんなに低いわけじゃないという、そういうことを議員報酬のところでは示したかったのと、トータル面積、人口っていうのはその議員定数を削減する一つの目安にもなるので、とりあえずそれを知っていただくというのがありました。

今回の委員会資料については、まず山口県柳井市については、12月の次期選挙で定数が18から16に、2減になります。これはどういうことかというのを議会事務局長に問い合わせましたところ、前回無投票になった時点ですぐに議員の間から、議員定数削減せなあかんのやないかという話が出たそうで、多少の紆余曲折あるものの、ほぼ議員の中で、それはもう定数を削減しなきゃいけないだろうということで、割とスムーズに2削減の議員定数の改正がなされて、それで令和3年12月の選挙から適用されるということになったそうです。

ほかに中国地方の境港市と大田市と高梁市ですか、みんな結構有名なところですよ。境港市も前回無投票だったので、どうするんですかと、どうなったんですかと聞いたところ、境港は漁獲高も日本有数ですし、鬼太郎ロードとか結構いろんなのがあって、かなり鳥取県の中でも全国的に有名な都市でありますけれども、もう、だからそれでもやっぱりその無投票になった以上は定数削減をしなければいけないというのがあって、そうは言っても、もうほぼぎりぎりだということで、削減幅は1になったみたいですが、そういう話がありましたね。大田市はもう次の選挙で2削減、高梁市に関しても、その無投票になった時点で、すぐに定数問題について考えようという取組に着手しているそうです。

だからここで私が何言いたいかというと、やっぱり無投票になったら、すぐ定数問題を考えようという機運というのが、普通の都市では持ち上がるということであって、だから定数問題、それは別に削減がいいか、削減しないほうがいいかって、それは全くどうということじゃないけど、削減しないなら削減しないという、ちゃんとした理論とか理由づけが必要だということと。定数問題を俎上に上げる以上、市民にちゃんと、なぜ削減するのか、なぜ削減しないのかということを開示しなきゃいけないと私は思っていますので、そういう参考資料です。

それで釜石市議会だよりは、釜石市が平成30年に、多分引退者が多いのを見越して、こ

れは定数削減せんと、無投票もしくは定数に議員が足りなくなるというような事態も想定して2削減したんですが、釜石市の場合は2定数削減しても無投票になってしまったという、それはもう引退者が想定を超えて多かったということらしいです。

で、この資料に関しては、釜石市議会事務局に問い合わせたところ、そういう何か参考資料として使っていただくのは結構ですが、営利目的にだけは使わないでくださいということでした。だからそういう意味で、今後の、いずれにしてもパブコメなりアンケートなり何でも、とにかく市民の意見はどういう考えかというのを聴取する際の参考資料として、釜石市議会だよりは配付させていただきました。

以上です。こないだ定数削減ありきという話がありましたが、別に定数削減ありきっていうか、私自身は定数削減に賛成ですが、衆寡敵しませんので、反対が多けりゃそれは否決されるんで、別に定数削減ありきということは全然ありませんが、一つ考えるヒントとして、資料は提供させていただきました。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

以上、かなり丁寧に小中委員から説明がありましたが、この資料を見ながら何か委員の皆さんの意見なり、ここを聞いてみたいなということがあれば、この機会ですので、意見を言っていただければと思います。ありませんかね。

北地委員。

○北地委員 資料、ありがとうございます。いろいろな、たくさん作っていただいて、また聴取していただいてありがとうございます。

この資料もあれなんですけれども、例えば釜石市議会だよりだけを見てどうこう言うんではなしに、今後の活動にはなろうかと思うんですけれども、調査研究にはなろうかと思うんですけれども、他の定数削減について検討したところの資料もやっぱりいろいろ見てみるべきではないかなと思うんですけれども、その辺りをどうするのかというのは、今後の検討課題として取り入れてもらいたいというのが希望でございます。

○網谷委員長 一自治体だけでどういう言う判断はできないということで、他の。

小中委員。

○小中委員 別にこの釜石市議会だよりっていうのは、釜石市議会だけを見てっちゅうんじゃないくて、例えばパブコメなんかを募集する際には、例えば釜石市議会はこのようにやっていますよと。で、大竹市議会は大竹市議会ですというふうにやるかっちゅうのは考えるべきで、たくさん集めるのもいいんですけど、たまたまネットで一番最初にヒットしたのがこれだったのでこれを出しているだけで、これだけがどうのこうのというのではなくて、いわゆるパブコメとかそういうのを募集するのに、その方法として釜石市議会はこういうふうに、いわゆる先進市っちゅうか先行市としてこういうふうにやっていますという資料であって、この釜石市議会のみを別にどうのこうのというつもりで、資料として出したわけじゃありませんので、ほかにあるんやったら、こういうのも知りたいっていうんやったらそれはそれで調べて、出るところは出るし、それはどうなんですかと言うたら電話して聞きゃいいだけの話なんで、それはその、またその場その場でという、ケース・バイ・ケ

ースでやればええと思います。

だから釜石市議会だよりについては、たまたま釜石市議会はこのパブコメの募集方法をしているということにすぎませんので、釜石市議会だけがどうのこうのということではないので、ほかの何か探してくれというんやったら、探すなり問合せをするなりしますので、その点は別に、釜石市議会だけをということではありませんので、その点は御了解いただきたいと。

○網谷委員長 要するに、参考にしてほしいという。

○小中委員 いやいや、だから参考にしてほしいというんじゃないくて、一応参考資料ってこんな、先行の、今までやった市はこないやってますよというだけの話で、別にこれがどうのこうのじゃなくて、あくまでも参考資料にすぎないので、その点を御了承いただきたいということです。

○網谷委員長 ですから参考資料として、一つのね。

ということで、北地委員、またこれからの議論でこういう、他の自治体の事例も出てくると思いますので、これは一つの参考資料ということでもよろしいでしょうかね。これで本格的に何もかも決めるということではないので、その辺のところは御了承願いたいと思います。

ほかに何か意見があれば、聞いてみたいなというところがあれば。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○網谷委員長 ないようですね。

それでは、北地委員からも前々回、資料が出ておりましたので、簡単に説明していただければと思います。

○北地委員 分かりました。委員長に送ったのは、今までの定数削減とかそういったことについての議会の中の動きの資料がありましたので、それをまとめて送ったというだけの話です。今までの定数削減とかの検討の経過とかそういうのが出てますので、一通り読んでいただければと思って送っただけです。よろしくお願いします。

○網谷委員長 一応こちらも参考資料ということで、前回の委員会で紹介すればよかったんですが、サイドボックスには早くから載っておると思いますので、資料のボリュームが大きいのは大きいんですが、参考に皆さん読んでいただいているかなと思う次第でございます。

そうした意味で、この中で何か意見がありましたら、こちらもなかなか具体的な資料としては載っておる、これは大竹市だけのことではあるんですが、載っておりますので、参考になればということで、私自身が、こういうのがあるんだということを知りまして、それなら載せてほしいということで、北地委員にお願いして載せていただいた経緯がございますので、こちらも、これからいろいろな議論が出るかと思っておりますので、参考にしていただければと思います。

以上で、資料のほうは小中委員と北地委員お2人が出された分だけでございますので、これについてほかに何か意見なりありましたら。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○網谷委員長　ないようですか。

それでは、本題ですが、今回皆さんに11月10日までに、これからの皆さんが、各会派としても個人としても、思われるというのか、文書にしてはどうかということを、先ほど御紹介しましたように、出していただいております。

その中で、やはりこちら各委員が出されたものですので、文書では出ておりますが、できればそれに説明を加えていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

文書だけでは分かりにくいということもあろうかと思いますが、お願いしたいと思いますが、サイドブックスには載っておろうかと思いますが、載つとる順に簡単に説明していただければと思いますので、最初に載っておりますのが副委員長、説明していただければと思います。

副委員長。

○西村委員　それでは説明をさせていただきます。

実はこの文書、私の文書が出とるんですが、まとめて申し上げますと、前回からも議会改革特別委員会、引き続き今も委員として所在してますので、その中で、前から言われる市民に開かれた議会、あるいは市民参加が推進できる議会、そして市民に信頼される議会を目指してということで、先ほどからいろいろ出ております議員定数もその中の一つでもあるんですが、そうしたものを取り上げて、先ほど委員長言いましたように、来年の10月ぐらいをめどに、一番の課題である議員定数なんかの問題についてを結論を出していきたいという思いでございます。

それで、私の会派からは、後ほどまた小田上委員もいらっしゃいますので、小田上委員からも申し上げますが、個人的に申し上げましても、議員の資質と言動について、あるいは議会改革に取り入れて種々これからも議論していくのが、私は肝心ではないかと思っております。

以上でございます。

○網谷委員長　ありがとうございました。

以上、副委員長がトップバッターということなんですが、今の御意見に対しまして、何か聞いてみたいということがございましたら。

議長。

○賀屋議長　すみません。遅れて来まして、申し訳ありません。

今言われました議員の資質と言動についてもという部分ですけども、これはもう立候補して、当然したら、それ以降にまた二次テストか何か加えて、失格とかいうことにもできませんので、もう立候補する段階で、資質についてはどういうふうに決めていくかということを、全く権限外の話になるんじゃないかと思うんですが、これは議員になってからの研修をしっかりとするという、そういうふうにとらまえていいんでしょうか。その辺り、もう少し御説明をいただければ。

当選した後にはしっかり研修をするというのは、でもそれは、研修そのものは議会とする研修と個人的に、自主的に受ける研修とあるわけですけども、自主的に研修をどんどん受けてくださいというのは、今度は個人差が出てくるでしょうし、なかなか資質と言

動という部分には、これは逆に言えば市民の判断に議員になれるかどうか、当選するかどうかということになるんだろうと思うんですが、少なくとも無投票であれば、その評価、判断もできなかったということになるんでしょうから、そのことを考えるとやはり選挙はやるべきであると、無投票にするべきではないということを、そういう意味合いなんだろうと思いますけれども、その辺りはもう一回整理をしていただきたいんですが。

○網谷委員長 副委員長。

○西村委員 おっしゃるのも一つあるんですが、要するに、議員としてもっともっと、私は委員会を頻繁に開いたり、そういう中での議論の中で、言動とかそういう資質の問題、議員としてそういう専門的な問題の勉強とか、そういうものを含めた考え方を議会でも取り上げるべきではないかなという思いであります。夢は夢かも知れませんが、もっと自信ができる議員を目指したいと、そういうことが必要ではないかと思います。

先ほどからくどいように申し上げますが、議員定数はやっぱり民意というか、市民の声ですので、このたび、2年前の8月の無投票の結果、一時期は線香花火のように議員定数の話が一部に出ましたが、やはりその後、これが議会改革の中で取り上げるべきならそういうことも、資質の問題というのはそういうことも含めて考えるべきじゃないかというのが意見でございます。

○網谷委員長 ほかに。

北地委員。

○北地委員 確認させてください。

今回、この意見を出せて言われたのは、定数削減に特化した意見を述べよということの委員長の指示だったと思うんですけれども、それで間違いないですか。

○網谷委員長 間違いはないんですが、副委員長の場合は、場合と言うたら失礼なんですが、前回の意見と一緒にすという意味で、議員定数にも関係していると思いますので、これに載せさせていただきました。

以上です。よろしいですかね。

ほかに。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○網谷委員長 ほかにないようでしたら、2番目に小中委員、先ほどもいろんな資料の中で説明されておりましたが、今回の文書の資料提供についての御意見があれば。先ほど言ったからもういいよと言われれば、そうですが。

小中委員。

○小中委員 私は、無投票になった以上、その議会改革の本丸っていうのは定数問題だと捉えています。

私は、結局私は告示日にくじ引きませんので、一番最後ですので、私が定数どおりだったら、要するにほぼ無投票ということなんですが、私は栄町で自分が自転車でポスター貼ってたときに、四、五人の方が集まって、選挙になるんですかねと聞かれて、私は16番目ですからね、次出てなかったら、無投票ですよ。無投票じゃいけんねという話で、ほんとで、だから私がもしかして議員になったら、少なくとも定数削減に向けて努力はしますと

いうお約束はその方々としたので、少なくとも定数問題が俎上に上がった時点で、私は半分ぐらいその約束は果たせたかなと。

さっきも申しましたように、衆寡敵せずですから、その定数削減が嫌だという人が多けりゃ、それはならんわけで、それは仕方ないけど、自分で最大限の努力はしなきゃいけないなとも思っておりますし、まずその資質云々っていうのは、それを判断、資質なりなんなりそういうのを判断するのは市民の方の権利でありまして、その権利を剥奪するような無投票というのは、あってはならないことだと思います。

だから、要するに定数削減したら、私はひょっとして落選するかもしれないけど、それよりも定数削減をして投票を実現すること、それこそが我々に与えられた使命であり、少なくとも大竹市の禄をはんでいる以上、一つぐらいまともなことをしなきゃいけないのではないかと私は個人的に思っていて、それは選挙を絶対にすること。

それで、前回選挙で中国新聞か何かに結構ぼろくそに書かれたような記憶があって、市議会だけじゃなくて要するに市民も問題やってそこまで書かれて、このままでええんかつちゅう話ですわな。

だから先ほども申しましたように、普通の、ほかの無投票になった議会はすぐ定数問題に手をつけとるので、ほか、市のものとかよりも、まずそこを一番最初に手をつけるのが、私は本来の姿ではないかと思っております。

だから別に、私は一人でも違うことは違うって言いますから。だから私は会派には属しておりませんし、会派、会派と言いますが、会派の人間が全部、例えば定数削減で同じ考えを持っているとは到底思えないので、よく党議拘束とか会派拘束、そういうものは絶対設けるべきじゃないし、会派全体としてそんなのを一つにするなんていうのは、全く私は、基本的にはナンセンスだとも思っております。

以上です。

○網谷委員長 定数問題から外れたところもありますが、それはそれといたしまして、今の意見に何かございましたら。

日域委員。

○日域委員 この調子で行ったらいつ終わるか分からないなと思いながら聞いてますけれども、決めることを、手順を踏んでいかないと結論が出なくなるかなという気もしないでもないですが。

確かに、定数のことをやるんでしょ。私もそれはあれですよ、無投票はあまりよくない。でも昔、これ大竹市議選の話ですけども、かなり前ですけども、ある段階で、これじゃあいつが通るじゃないかって、そんなことは許さんって言って誰かが手を挙げて、選挙になったっていう話を聞きましたけど、今回で言えば一応16人ならええかと市民が思ったから、プラスワンが出なかったのかなという気がします。

選挙も、それはそんななかなか理想論どおり行きませんが、この前は選管の書類の中に、15時に立候補届けをするっていうリストが載ってましたよ。彼が来なかったから無投票になったんですけどね。いろんな人がいて、いろんな人が判断してるんですよ。ただ、定数割れよりはいいですから、ボーダーラインですよ。

結局これ、要は現状維持か、増やすっていう人はいないと思いますが、増やすか現状維持か減らすかですけども、それをまず表明して、それで議論を進めないと、話が広がっていつている気がするんですけども、もう話を収れんして、絞っていかないといけないかなと思います。すみません。

以上です。

○網谷委員長 ほかに。

まだ小中委員に対しての意見でございますが、なければ次に行きたいと思いますが。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○網谷委員長 ないですね。なければ、次は北地委員なんですかね。

北地委員。

○北地委員 私の意見ではございますけれども、今、日域委員のほうから、自分の意思を表明して進めるべきというお話もありましたけれども、私としては議会改革特別委員会としても、これから定数について議論していくわけなので、今固定観念を持つよりかは、いろんな研究をする中で方向性を決めればいいのではないかなと。最終的に結論を出せばいいのかなということで、こういう文書になりました。

だから今の段階では、調査研究を早めに進めていっていただきたいというような考えでございます。

以上です。

○網谷委員長 今の北地委員の意見に対しまして、何かありますか。

議長。

○賀屋議長 すみません。具体的にその調査研究という中身ですけども、例えば同じ規模の自治体の議会の動向を比較するような資料を集めるとか、あるいはそこら辺で定数が問題になっているところのヒアリングをしてみるとか、そういうことであるとか、あるいは市民にアンケートを取ってみるとか、あるいは市民との対話、集会みたいなものを開くとか、そういう具体的に何をどのように調査研究をするかという、何か案があれば示していただければ分かりやすいんじゃないかと思うんですが。

○網谷委員長 北地委員。

○北地委員 だから今からそれをスタートするんであって、それを皆さんと協議しながら決めていくというほうがいいんじゃないかとは思いますが、今は個人でこういう案がありますよということではないんです。

だから、議会改革特別委員会としてそういう案件を、どういふのを調べたらいいのか、調査したらいいのか、研究したらいいのかというのを具体的に、これから委員長の指示というか、そういったことで案件を出していただいて、皆さんから募集するとか、そういうことをしていつて決めていけばいいんじゃないかなと思っております。

今、個人的にこれがいい、あれがいいというのはございません。

○網谷委員長 ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○網谷委員長 ないようですので、次は藤川委員ですかね、お願いします。

○藤川委員 まず、会派の意見を集約したことを提出させていただきました。

議員定数の削減が全てではなく、目的でもない。まず、私はこの議員定数についてがこの土俵に乗ったことが、まずありがたいかなと思っております。市民が納得してくれる定数が大切と考える。で、選挙は必ず必要だと考えています。それはもう会派の意見です。

今までの話を聞かせていただいて、やっぱり今後の進め方を今から皆さんとやっぱり検討していく、どういうふうに考えていくか。まず減らす方向で考えるのも大切なんでしょうけど、先ほども皆さんの意見がありましたように、何で減らすのか、じゃあ減らさないんだったら何で減らさないのか。

いろんな、小中委員が集めてくださいましたように、釜石市のを参考にしたり、柳井市さんを参考にしたり、同じ定数削減をしたところの、減らしたところ、減らさなかったところ、減らさなかったら、じゃあ何で減らさなかったのか、減らしたところにとって、減らしたらよかったこと、減らして市民は納得したのか、減らして困ったことはないのか、そういう細かいところも今後研究していく必要があるんじゃないかなと考えております。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

今の藤川委員の、こちらのほうも研究をしていくということなんですが、何か意見がございましたら、それに対しての。調査研究をするということですね。分かりました。

ほかに。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○網谷委員長 ないようですね。

では次に、くろがねさんの原田委員。

○原田委員 まず、先ほど小中委員から、会派というのは一つの意見じゃなくてばらばらで当然だというようなお話があったと思うんですけど、この後日域委員からもその話があるんじゃないかなと思うんですけど、うちの会派に関しては本当にそれぞれが自分の意見を持っておりますので、そういう会派で一致した意見であるとか、そういうこともないですし、今後もないと思います。

それで個人的な、今回その議員定数の問題についてはということで、その辺に特化した、先ほども北地委員からも質問があったと思うんですけど、そういうふうに私も理解しておりましたので、これは今すぐに、今というか今回こういう議員定数の問題を取り上げたからといって、今回いろいろ考えてみて、こういうふうにしたものではなくて、もう無投票になって議員になってから、ずっとこういう思いは抱いておりましたので、一部この2年間の間に、少し自分の中でこういうものもあったほうがいいんじゃないかとか、こういう考え、もう少し取り入れてみようとかいうのはあったんですけど、もう基本的な私のこの、ずっと議員になってからの考えを記しておりますので、説明といってもここに書いてあるとおりなんですけど、こういう3つの大きな項目でまとめてはみました。

読んでいただければ分かるのかなと思うので、長くなっちゃいけないので、これぐらいで終わらせていただきます。

以上です。

○網谷委員長 かなり文書を見てみますと、具体的に書かれておるので、こちらのほうの意見として、皆さん何か聞いてみたいことがあるなと思ったらお願いします。

結論的な議論になろうかと思いますが、先ほどの調査研究の意見から飛び越えて結論めいた文書になっておりますので、こちらはこちらで、また早い時期にこういう結論が出ることもあり得るのだなと思ひまして、皆さんの意見がございましたら。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○網谷委員長 ないようでしたら、いずれこういう具体論に入ってくる時期が来ると思いますが、そのときにもまたということで、皆さん、ここは意見の問いようがないようでございますので。

それでは意見が今のところないということで、次は日域委員ですかね。文書が出ておりますので、よろしくお願いします。

日域委員。

○日域委員 実はうちの会派は、紙が2つに分かれてしまって、この文書を書いたのは私じゃなくてうちのメンバーの一人なんですけれども、ほかから来なかったからこれを出したんですけど、原田委員からすぐ言って、出されたということで。

○網谷委員長 確認。原田委員は原田委員の文書を作った。それで日域委員は会派の中の、誰かの意見ということ。

○日域委員 誰かさんの。

○網谷委員長 分かりました。

○日域委員 そう大きな差異はないですけども、うちの会派はそうじゃない人もいますから難しいんですけども、ただあれですよ、無投票っていうのはやっぱりおもしろくない、おもしろくないという表現は非常に次元の低い言い方ですけども、やっぱり選ぶほうも選ばれるほうも、一応の数字があって、得票が多かったり少なかったりを含めて、やっぱりそれは自分の一種の評価ですから、その評価点がないっていうのはやっぱりあまりおもしろくないんで、理屈の前にやっぱり小中委員のおっしゃるように、無投票になったらまず考えるっていうのは、妥当かなという気はしますけどね。うちは、どっちかというところを削減しようっていうことです。

それで、資質の問題ですけども、例えば議会にすごく優秀な人がいて、その人が引っ張ったとしても、ほかの人がその立派な考えを理解できなかったら、できないですからね。やっぱりこの民主主義っていうのは、やっぱり全体のレベルを問われる話であって、一人の優秀な独裁者が引っ張っていくっていうと発想違いますから、やっぱりそれはこのメンバー見ても、ある意味大竹市の平均像だと思います。それはもう宿命ですから、議員の研修とかなんとか言っても、それはなかなか難しいです。

でもそれは、市民が鏡を見ているような状況ですから、それでいいんだと思いますけどね。とにかく無投票っていうのは、議員、選挙する側からしたらすごくラッキーという気はしますけれども、やっぱりノーマルではないだろうと思います。

○網谷委員長 無投票はよくないということで、もちろんそれは皆さん意識しとると思いますので、その方法論として、今皆さんに文書を出していただいたということで、今の日域

委員の意見に対して何かございましたら。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○網谷委員長　ないようなので、次に最後になりますが、小田上委員になりますかね。

小田上委員。

○小田上委員　書いているとおりで、今まで30人いたところから今16人になっておりますと。

それで16人になった経緯、情報提供いただいた資料を見れば分かるんですけど、本当に見てくかどうなのか。同じ、こういう経緯があったよねっていう認識を、この議会改革特別委員会のメンバー全員が持っているのかというところ、そこからスタートしないといけないのかなと思います。

無投票になった原因っていうものを考えないといけないのかなとも思います。おとといカッターで指を切っけがをしたんですけど、カッターで指を切った原因は何だろうと思ったら、多分切れ味の悪い刃を使ってたんですよ。それで力が入って、指を切ってと。それじゃあカッターの刃を替えとけばよかったなと思ったんですけど、無投票になる原因は、じゃあ定数が多いからなのかとか、その理由が正直、僕もいまいち分かってません。なので、定数をこのままにするのか減らすのかっていう、立場の表明というか、そういうところも難しいなと、正直なところ思ってます。

28歳で出ましたけど、28歳で選挙に出るってなると、当選しやすいほうがいいですし、定数は多いほうがいいなと。それで40代とか働き盛りの人が選挙に出るんだったら、月、総支給で37万円ですからね。いろいろ払っていったら20万後半ぐらいの手取りになるわけで、じゃあそういう人たちが仕事を辞めて来るのかなという、難しいだろうなというようにところもあったりするので、単純に議員を増やそうと思ったら定数を増やして報酬を上げりゃ、議員増えるのかなと。それが難しい中で考えるところで、本当にいきなり定数でいいのかなっていうところもあります。

話があっち行ったりこっち行ったりしてるんですけど、なので、どういうところが分かってないのかとか、どういうところを不安に感じているっていうのを、まず議員16人の中でアンケートを採って、無投票になったことの意見、こういうことで無投票になったんじゃないかと。いろんな総務省とか国会のほうとかでもいろいろやってますけど、話合いで無投票になったとか、あんた出るんじゃないたら私は出んわと。逆にあんたが出るんじゃないたら私も出るわと言って選挙になったりとか、そういう傾向があったように見えるのか、なかったように見えるのかとか、そういうところも全部含めて、本当だったら選挙になるような力を持っている大竹市なのに、選挙にならなかったのかどうなのか。それは、選挙に出るまでは市民ですから、市民の人たちと一緒に考えていかないといけないのかなとも思います。

なので、たださっきも、今までずっと意見が出てますけど、どういう意見なのか分からない中で意見を尋ねられても、なかなか難しいなと思うので、議員16人がどういう意見を持っているか、少なくともこの議会改革特別委員会のメンバーがどういう意見を持っているかというのは、ある程度明らかにして、研究調査を進めていったほうがいいのかなと思います。

長くなりました。以上です。

○網谷委員長 みんなそういうものを、内訳と言われます、この例と書いておられますが、それが一応、感じで、こういうことをしたらどうかという意味のことですよね。

以上、その件に、今の小田上委員の意見に対しまして何かございましたら。

小中委員。

○小中委員 原因をっていうのは、例えば最初の成り手を増やすっていうか、まず興味がないっていう人が多いのかもしれないですけど、まず報酬が多いとか少ないとか、報酬を例えばじゃあ10万円上げたら成り手が増えるかっていったら、そんなことないと思います。何でか言うたら、要するに私も思いましたけど、例えば供託金30万円を払って、通るか通らんか分からんのに、その供託金30万円を払うっていったら、結構普通の人からしたら非常に冒険なわけですよ。

で、ふだん普通の定職のある人、ある一定の収入がある人がそれを投げ打って議員になろうというか、そういう人はあまりいないと思いますね。だからよっぽど、もう一か八か、定職もなくて一か八かの勝負をすとかそういうんであれば話は別やけど、それと例えば結構大きな会社で議員をしながら、辞めないで議員をしながらいられるところと。例えば中国電力とか、そういうようなところでありゃ別だけど、そうじゃないところだったら、そりゃ普通の人が自分の定職を投げ打って世代交代言うたってよっぽど、だからそこに問われるのは志であって、そういう志のある人はそこそこ資質もあると思いますけどね。

だから、それはもう結構ですけども、ただやっぱり選挙せなあかんねんから、選挙するためにはどうしたらええかちゅうことを考える、どうして無投票になったかを考えるのもいいけども、次は絶対選挙をしなきゃいけないという、そういうことを前提にすることは必要じゃないかなと個人的には思いますけど、別にその意見を、16人から意見を募るのは結構ですけど、私はなぜ無投票になった、それは、言うても何かを上げて、それをどうやって証明するねんちゅう話になると思いますね。

何でこうなったかちゅうか、だからそれをするためになぜそうなのかというようなことは、指摘はできないと思います。それ、だからと言ってそれを16人全員にどう思うかってやるのは、それは別に構わんと思いますが、私は個人的にはそう思います。

○網谷委員長 そういう議論を、今から来年の10月ぐらいに向かってやっていこうということなんですから。

日域委員。

○日域委員 いや、今小中委員の発言を聞いて思ったんですけども、さっきの小中委員の発言と北地委員と、例えば今回大竹市においては例外的に無投票だったんですが、あれがもし、何回か続くじゃないですか。そしたら、今度逆に後から出たやつが、おまえが出るけん選挙になったやないかって言われるわけですよ。だから、出やすくするためにも選挙はあって当たり前ちゅうほうが、本当はいいわけですよ。

市議会なんかはどのぐらいか知りません、小中委員のデータ見たらそれなりに無投票ありますけれども、県議会なんか見たら、特に山陰のほう行ったら無投票だらけですよ。あんな選挙かと思えますけど、やっぱり選挙はあってしかるべきでしょう。そのための

工夫は、どうあるかとかなんとかっちゅう大きな話は別にして、やっぱりそこは、あまりにも少人数じゃ、やっぱりまずいですよね。本当に、選挙がないことが定着することが怖いのです。

○網谷委員長 今の日域委員の意見ですが、私は、私ことに考えましても、今16人の議員がおりますが、16人全員選挙がなければいけないという認識は、私は持っておると思います。ですから選挙は必ずどうかというのも、これからの議論の中にあるんですが、それも含めて皆さんの意見をこれから、少し時間をかけて協議していこうということでございますので、選挙の投票がなければというのは、これ結論と言ってもいいでしょう、16人全員がそう思っていることは間違いないと思います。私が断言してもしょうがないんですがね。そういうことも含めて、これからしっかり議論していければなと思っております。

ということで、今の小田上委員に対する御意見はそれぐらいでよろしいですか。ほかにあります。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○網谷委員長 ないですね。

ということで、皆さんの一応、このたび議員定数に限っての文書としての提出をしていただきました意見を拝見いたしまして、皆さんからまた質問のような形でいただきましたが、大体この議員の中の輪郭は分かったと、皆さん思っております。皆さんもそうだろうと思っております。

そのようなことで、先ほどのかなり具体的に突っ込まれた文書もございます。それから、またこれからの特にスケジュール的なことを主に書かれた委員の方もおられますので、その辺のところの、今の小田上委員の16人のアンケートも含めて、調査研究をという委員の方が二、三おられたように思いますので、その辺のところの議論に入らせてもよろしいでしょうか。よろしいですか。

ということで、先ほど北地委員から調査研究をして、この文書の中では期間を区切ってやるという意見がございましたが、そのほうを具体的にどういうふうな形に持っていくかということを、皆さんの意見を聞かせていただければと思うんですが、その辺の意見を絞って協議してみたいんですが、よろしいでしょうかね。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○網谷委員長 それでは先ほどのチーム創安の中の意見として、何か月に一遍とか、何か月是一个のテーマに絞ってと、そういう意味でよろしいですかね、北地委員。これから、来年の令和4年10月に向けて、何か月間に、このテーマで行くとかいうふうに絞ってという意味でよろしいんですかね。表現が悪いんですかね。

北地委員。

○北地委員 どういうテーマが出てくる、どういう調査研究項目が出てくるかによって、そのスケジュールの全然感覚が違ってくると思うんですが、だから今、どっちがいいんですかね。柔軟的にやるのがいいのか、もう固定して決めて、もうここからここはこういうテーマによって決めるのがいいか、その辺はまた迷っているところなんですけれども、何を調査するか、研究するか、討議するか、議論するかということを、まずは決めていかないと、

そのスケジュールも組めないのかなとは思っておりますけれども。だから固定的なのは、今、頭にはないですけど。

○網谷委員長　ありがとうございます。

今北地委員が言われたように、何を、期間に、どういうテーマで協議するかということ、今具体的に出されておりますのが、今、小田上委員が出されていますよね。なり手不足の問題点を整理するとか、それからなり手不足に対する解決策の整理、その中には議員定数、また報酬等も入っているということです。それから最終的には改正案等の作成、こちらのほうは文書になるんですかね、小田上委員。

○小田上委員　あくまでも例でざっくり書いたので、ほかの方の意見でもあった、例えば議員定数減らした市町の研究をする、維持した市町の研究をするってところが最初に入ってくるかもしれないですし、10月程度までに結論を得るってところで、そこから条文の作成に入っていくってことであれば10月までは使えると思うので、なので、何の項目をやっていくかっていうのをまず上げていって、じゃあこれが先かねと、じゃあこれをいつまでに終わらせようかっていう話をしていかないと、今何をしたらいいんだろうかっていうところで正直迷っているところもあるんで、今から定数についてこの中で話をどうぞって言われても、できると言えばできるけど、エビデンスを持ってないというか、何でもこう思うのかっていう根拠を持ってないところもあったりするんで、一個ずつ全員が共有しながらできればいいなと。そういうスケジュールをつくっていったほうが、準備もできるんじゃないかなっていう、あくまでもその意見です。

○網谷委員長　ありがとうございます。

スケジュール的なことと、今小田上委員が言われましたように、先ほど最初の皆さん方からの了承の件で、これを私が皆さんに提示するのを忘れとったんですが、重複を集約できるのがあればということなんで、この、前回も示し、タブレット入っとなると思いますが、新しいやつが入っとなると思いますが。今回の分が入っとなるでしょ。

これを、先ほど皆さんに了承するのを忘れておりました。これは今度新しく、新しいと言っても何ですが、一応見ていただいたら分かると思いますが、議員定数についてを二重丸にしております。これは皆さんと一緒に、前回までに協議した議員定数を軸にして委員会を開くということは納得していただいておりますが、その中で、決定という言葉がよくないので実施にいただいたのが、議長主導のSNS発信、それから委員会のテレビ中継、ネット中継、そして自由討議の制度導入、そして今、今回はしないということで、決算特別委員会等の意見を議会提案ということ、今4つほどの丸印で上げておるんですが、これは並行していつでも協議しようということには、皆さん了承いただいたと思います。そういうことではございますので、これからどういうふうにするかということは、今後テーマは、二重丸としております議員定数についてが、一応メインテーマでございます。そして、必要とあらば丸印の協議をするということでございますので、いつでも協議はできる体制にはしとるつもりでございます。

それで、これを何をやるんかと言われても、そういう方向性を副委員長と考えてこういうふうにしたんですが、とにかくメインテーマは皆さん一致しておると思いますが、議員

定数についてをメインテーマにしようということは了承されたと思いますので、その辺に必要とありますと、必要とするのであれば、いつでも今の4つの実施されておりますが、これはいつでも修正なり、また協議はしていきたいと思います。

ということで、あとの三角は、一応議員定数の問題が解決した後には、できれば、あまり日にちもありませんが、やっていこうと思っているという次第でございます。

ということで、今北地委員が言われましたように、この議員定数についてを、もう期間を区切って、何のテーマにするかという意味でございますので、それを、あれもこれも入れるわけにもいきませんので、そういう解釈でよろしいんですかね。小田上委員、よろしいですかね。

ということで、今の議員定数に限って、これから来年の、厳密に言えば10月いっぱいぐらいまでに結論を出したいという意味でございますので、その中でどういう協議をしていけばよいのか。

例えば2年前の議員定数の問題、2年前の大竹市の議会選挙の無投票との因果関係、なぜこうなったのかということと、議員のなり手不足に関する打開策、これも原因を解消してのことでございます。

そして、議員削減・増員も含めまして影響、デメリットなど、または必要性の根拠等々出ました時点で、以上のような議論を進める中で、今まで小中委員、北地委員の、今までは資料提供していただきましたが、これからも資料提供があれば、その資料に基づいての協議をしていきたいということで、私は考えておるんですが、それを含めまして、時間を区切ってといいますか、時期を区切ってこれだけの議論を徹底してやるということになるのなら、その徹底してやる項目ですかね、その辺についての皆さんの協議をしていただけたらと思います。

私と副委員長がこれを決めるというわけにもいきませんので、いや、もうずばり定数問題に突き刺さっていけばええという意見もあれば、待ってください、その前に前段として、いろいろな原因、要因を突き止めて、最終的に一番メインでございます定数問題に入ってはどうかという意見でございますので、その辺のところを皆さんと協議していただけたらと思います。

小田上委員。

○小田上委員 すみません、何をどの手順でやっていく、これをこういう手順でやっていこうと思うって、ある程度委員長からとか、副委員長を含めお示しいただいて、このほうがいいんじゃないかっていうのは言いやすいかなと、正直思いました。

またゼロベースから、もちろん僕たちも考えないといけないですけど、スケジュール感考えていくってなると、また各委員がおのおので出してきて、ばらばらで調整をしてって難しいのかなと思います。

ただ、この議会改革特別委員会の会議の機会も何度も何度もあるわけじゃないので、今回中にスケジュール感を決めるっていうことであれば、最初は藤川委員の言われた他市町の状況を調べてみるっていうところが一つなのかなとは、最初のスケジュールの一つとして、かなとは、個人的には思います。

もうさっきから、何で、多分何か言うべきじゃないんでしょうけど、もうここで全会一致で2つ減らしますって言えば終わる話を。例えばですよ、選挙せんといかんと。選挙はしてるんです、僕ら、無投票だっただけで。投票行為、市民に投票行為をしてもらわんといけんという理由で、もう2議席減らすと、いいよねと今なれば、全員がですよ、例えば。だから減らしますって言えばもう終わり、あとは条文考えるだけでいいんですよ。

じゃあ何でこんな面倒くさいこと、面倒くさいですよ、だって減らす理由と減らさない理由、両方とも考えながら行かないといけないんですから。で、現状を分析しないといけない。

何でこんな大変なことをしているかっていうと、何で減らしたのかっていう説明をちゃんとするため、何で維持したのかっていう説明をちゃんとするためだと思うんですね。なので、しっかりほかのところも分析してっていうことをやっていかないといけないのかなと思うので、僕はスケジュールの一つ目は、他市町を比較してみる、勉強してみるっていうのは一つかなと思います。

○網谷委員長 藤川委員。

○藤川委員 ほぼ、小田上委員の意見に同じです。やっぱり他の市町を研究したり、私、知らないんで、お恥ずかしながら聞かせてください。

大竹市、今までに、過去に定数削減してきた経緯がありますよね。それはなぜ削減したのか、私知りません。軽く読ませてもらったら、人口が減ってくるから減らしたと。そのときは選挙あったと思うんですね。前回は初めての無投票。なのに減らしているその本当の理由。人口比率からの議員定数なら、それはそれでいいと思うんですけども、それは市民の声だったのか。

あと、減らしたときに市民が困ったこと、議員さんが、僕よくいろんな方に、今議員定数のことが土俵に上がりましたとお話しする機会を持って、よく話をさせていただくんですけど、年配の方は、私に言われるのは、減らす必要はないと。やっぱり昔は、私はよく知りませんが、各町から1人議員さんがおって、町のよく声を聞いてくれたけん、やっぱり減らしたら私らの声が届かんけん減らす必要はないよという声を、よく聞きます。それは選挙に行かれる方もそうだと私は思ってるんですね。

で、そのときに大竹市が議員定数を過去2回、もっとあるんでしょうけど、減らしたときに、そのときに市民が困ったこと、あとそのときの議員さんが減らして困ったことを、私は知りたいかなと思います。

○網谷委員長 小中委員。

○小中委員 私は思うんですけど、よくその議員定数を減らすと声が届きにくくなるという意見があるのは、それはそれで一見もっともらしいんですけど、本当に声を届けようと思ったら幾らでも手段はあるわけで、それは自治会単位で何か決議なりなんなりして、それを市に持っていくとか、いろんな方法があると思うんですよ。それは、だからその意見が届かなくなるっちゃう人に、私としたら、ほんなら無投票でええんですかと、投票せんですとでええんですかと。

それは、とって、それはそれぐらいにしときます。これは私の意見だから、思います

けど、私まず議員の16人がどう考えているかと、定数問題ね。だから例えば削減に賛成・反対、まだどちらとも言えないでもなんでもいいんですが、それを、その現時点での思いっていうのを、アンケートなりなんなり取って、それでなぜその削減が必要なのかとか、じゃあ削減すべきでないっちゃう人には、じゃあ削減せんでええっちゃうんやったら、ほんなら無投票にならないためにはどうしたらええんか、あんた考えとるんかと、そういうことになると思うんですね。

だからそういうことを、まず16人のその意見を吸い上げないと、まず他市町をやるのもいいんですけど、それよりもまずその16人の意向を確認するというのが必要じゃないかと私は思います、一番最初にね。

○網谷委員長　ありがとうございます。

今、小中委員から、これは先ほどから小田上委員の意見の中に入っていた16人のアンケート、議員の。これ意見が皆さん、多いようですかね。

原田委員。

○原田委員　今小中委員が言われたこととほぼ一緒なんですけど、小田上委員も言われたように、やはり原因が何かあるんだと思いますので、それも一応やはり検証しておく必要があるかなと思います。

それを検証して、なおかつ、じゃあ選挙になるようにどうしたらいいのかと、小中委員が言われたように、どうすればいいのかということを各委員が、それぞれ自分の、多分皆さんそれぞれに思いがあると思います。今現状、私は結構具体的に書いてるので、ほぼほぼこれ書いた意見なんですけど、それはこういう具体的なことじゃなくても、中にはやっぱりこれからいろんな議論を重ねていくうちに結論出したいとかいう方もいらっしゃると思います。それは自由だと思うんですが、小中委員のおっしゃるように、やはりこの現時点で、皆さんどのようにこの議員定数について意見を持っておられるかということ、皆さん共有しておく必要はあるのではないかなというふうに思いますので、まずそういうところから取りかかる、なおかつ先ほど並行して、各市町ですか、いろんな市町村のデータとかそういうものももう見ながら議論していくという方向がよろしいのではないかなというふうに、私は思います。

以上です。

○網谷委員長　アンケートをやるかということ。16人の。

原田委員。

○原田委員　アンケートという形じゃなくても、この場で皆さんで、今、今日っていうのは難しいかも分かりませんが、次回皆さん考えてこられて、そこで文書にして提出するのがいいのか、ここでその1人ずつとか、その意見を述べるのがいいのかは分かりませんが、その辺りは皆さんとの相談になると思うんですが、いずれにしても何かの形で、どちらかの形で、自分の意見をまず表明するというのは必要じゃないかなと思います。

以上です。

(発言する者あり)

○原田委員　失礼いたしました。

会派のそのほかの方の意見というのは、もうここでは述べられませんので、こういう意味で、で今回みたいな形で提出していただくというのでいいと思いますが、こうやって議論をする場があるわけですから、紙に書いて出すのももちろんなんですが、そこでしっかりと自分の、ここで意見を言う機会があるわけですから、そこで自分の持論というか、この定数問題について考えていることを、1人ずつが意見を述べてもいいと思いますので、その会派のほかの、この議会改革特別委員会以外の委員に関しては今の形で提出で、ほかの議員がどのように思われているかということも大切ですので、それももちろん大事ですが、この議会改革特別委員会の委員がどういう意見を持っているかっていうことを、まず1人ずつ述べるのが、まず一番先ではないのかなと。

○網谷委員長 休憩させていただきます。

11時22分休憩

11時24分再開

○網谷委員長 それでは休憩前に引き続きまして、会議を続行いたします。

北地委員。

○北地委員 私は、別に今の段階で自分の意思を表明する必要はないと思うんですよ。だからそういう、例えば、極端に言いますと、先ほど小田上委員も言われたように、皆さんが削減というふうになればもう方向が決まっとるんだから、あと。

○網谷委員長 決まってないですよ。

○北地委員 いや、決まりますよ、それは、皆さんが削減ということになれば、方向が決まるわけだから、もうこの委員会に何の意味もなくなってくるでしょ。だから今は白紙の状態で皆さん、この討議に臨んでいただいて、周囲の状況とかいろんなことを調べる中で、大竹市としてはどうあるべきなのかという方向性を出していくべきではないかと。そのための特別委員会じゃろうと思うんですよ、僕は。だからその今の段階で、何で表明せにやいけんのかなというのが、自分の意見です。

○網谷委員長 今、アンケートについて。

○北地委員 そんなんする必要ないですよ。する必要ないです。

○網谷委員長 私はこの件は、小田上委員の意見を尊重しますと、2回するような格好になっておりますよね。ということは1回目は、急ぐという言葉がいいのかどうか、早くしなければいけないのではないかなというふうに解釈しとったんですが、小田上委員、何かあります。

北地委員。

○北地委員 皆さん個々には、心の中にはいろいろな思いがあるとは思いますが、この特別委員会をつくってるわけなんで、この中で今から協議しようという特別委員会なんですよ。だから心の中では思いがいろいろあるでしょうけれども、この平場で、どう言いますか、大竹市議会としての方向性を出すためには、やっぱり固定観念をある意味最初に表明すると、そっちの方向に流れていく可能性も十分あるので、今の段階では表明とかいうのは必要ではないんだろうというふうに思っております。これが意見です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

ただ、私がそういう言動をするのは、その北地委員の資料の中で、アンケートではありませんが、議員全員協議会を開いておるんですよね、過去に。そういうのを含めて事例がありますので、これは今回はアンケートという形になりましたが、そういうのを含めてありかなと思いましたが、それは皆さんがする必要がない、これはまだ研究する余地があると言われれば、そちらのほうでよろしいんですが。

小田上委員。

○小田上委員 2回アンケートを採ったらいいんじゃないかなと。やっぱりこの委員の中で、減らすべきだと思っている人が誰なのか、現状維持だと思っている人が誰なのかっていうところを求めてたわけじゃなくて、全然無記名でよかったんですよ。議員の中での傾向としては減らすべきなのか、維持なのかっていうのが分かればいいかな、ぐらいいい考えてました。

僕はそこまで深く考えてなくて、最初は例えば維持だとして、協議していく中で、でもやっぱり削減かなというふうになれば、最初はこうだったけど、話していく中で会議を重ねていく中で、削減になりましたっていうところの思いに至るっていうのは十分あり得るかなと、往々にしてあり得るかなというふうに思ってたので、初回と中間とか、2回のアンケート、ありかなとは思いました。

ただ、意見を表明してしまうと、なかなかそこから軌道修正しにくいとまでは言わないにしても、やっぱりこういう意見があるんだっていうふうに強く思われる方もおられるでしょうから、すべきなのかどうか、じゃあ記名か無記名かっていうところを含めて、なるのかなと思ったりします。

ただ、大体のこう流れが、雰囲気が分からない中で話をするからこそ、あっち行ったりこっち行ったり、じゃあ、僕どのスタンスなんやって言われたら、僕は分かりませんと、まだ。っていうところなんで、じゃあ1人1人表明してくださいっていうのもよく分らんけど、話を議論していく中で、あの人はどう考えとんだろうかっていうのが分からん中では、議論しづらいなっていうだけですね。

○網谷委員長 ありがとうございます。

副委員長、何かあります。

日域委員。

○日域委員 堂々巡りになってきている気がするんですけど、本来で言えば報酬審ってありますよね。報酬審は、自分で決めるのは難しいからって外部に投げてやるわけじゃないですか。この話も、私前もどこかで言いましたが、選挙出る人間からすれば、無投票ってこんな楽なことない、ありがたいんですが、でもそれはおもしろくないねっていうのは、当然もっと広く見ればありますよね。

自らが決めるって非常に難しいわけですよ。かなり、だからもちろん絶対減らすんだっていう人もいるでしょうし、そうじゃない人もいるし、それぞれあるとは思いますが、かなり複雑なものを本音の部分では持ってて、要するにここですること自体が、もともと難しいんだよねっていうことは分かっと思ってほしいんですよ。

だからある意味では、この議会である委員会を、外部の委員を募ってそこで意見をまと

めてもらおうと。それを受けてどうするかは、最終的には議会が決めると、そういう話だあってあり得るんでしょね。

他市がどうやったかっていうのもいいですけども、他市もどっちみちあちこち見ながらやってるんで、例えばそういう外部に諮ったと、そういうところがあるかないかも含めて、きちんとやろうと思ったら、その辺かな。

それで、だから大竹市の過去で言えば、大体もう辞めるという、わしは今期で辞めるけえっていうタイプの人が、そういう立場の人がこの削減をリードして、それでまとめてその人は引退ですよ。それで現職から見たらおもしろくないぞと思いながら、そういうのは大竹市のこの20年ぐらいの間の歴史だと思います。

以上です。

○網谷委員長 今、日域委員が心理状態の中を言われたような気がします、あと1点、堂々巡りという言葉が出ましたので、1個ずつ整理しましょう。

今、私がアンケートがあるよねみたいな、皆さんの意見を聞いて思って、そういうふうな皆さんに、誘導と言うたらおかしいんですが、そういうふうな意見の投げかけをやったんですが、これはアンケート、どうしますか。1個ずつ、片をつけると言っちゃあおかしいが。

小中委員。

○小中委員 先ほど小田上委員が言われましたが、別に記名にこだわる必要はなくて、全員出してもらわな困りますけど、無記名でも別に構わんと思いますが、とりあえずやる必要ないっていうよりも、とりあえず現時点での傾向っていうか、どういう思いを持っているかっていうのは、私は知る必要が絶対あると思いますよ。そんな、その他市がどうのこうの、他市がどうじゃけえ言うて、他市がどうのこうのもええけども、ほんじゃああんたはどないなんやっちゅうことになるんで、他市のも見て、ほんで決めるんかと。そんなことはないと思いますよ。他市はあくまでも参考であって、その現時点でどうかっていうのぐらい、その言えるか言えないか。私はそれ、議員の資質やと思いますけどね。

○網谷委員長 ありがとうございます。

北地さん、何か。

北地委員。

○北地委員 絶対ないと言われましたが、絶対ないとは絶対ないと思いますので。

○網谷委員長 何がないです。

○北地委員 小中委員が言われたように。

表明はやっぱりそこでなくても、無記名と言うならばいいのかなというような感じはありますけれども、そこもある程度、どういうんですか、現状維持とか削減とか、今は不明とかいろいろなパターンあると思いますけどね。丸かバツかで言われるよりは、そういった3段階ぐらいの方法かなと今は思いますけれども、記名してまで出す必要はないと私は思っております。

○網谷委員長 今のアンケートの件ですが、結論を出すための、設問にもよるんですが、結論を求めるのではないんですよ。設問の文言にもよるんですがね。どういう、先ほど言

うようになり手不足はどうか、これをもし実行したらどういう影響が出るのとか、そういう文面にするとすれば、私はそういうふうを考えとるんですがね。それが何人にするんだとか、何人増やすんだとか、そういう質問はしようとは思いません。

2段階目で文書の流れの中で、数字に行き当たるようなことがあるかも知れませんが、あくまでも委員会の参考にするためですからね。やるとすればそういうふうには私はお考えおるんですが、やらなければやらないような方法を、また今の資料を取り寄せて調べるとか、その中で研修をするとかいう方法があるかと思しますので、皆さんにもそこは私は決めていただきたいということでございます。

何かありますか。

日域委員。

○日域委員 正直言いまして、皆さん基本的には削減なのかなと私は思っていましたけど、意外とそうでもないねって、私の読みが違ってたのかもしれませんが、この委員会はどっちで持ってってまとめるかっていうのは、例えばそういう表明っていう手もあるかもしれませんが、ある意味では委員長権限で、個別にあだこう言いながら、こいつはこうとか、あいつはこうとか、そうやっていけばある程度流す方向が、委員長として把握できるんじゃないかなと思いますけれども、これ理屈では絶対行きませんからね。

昔、あれです、大竹市議会基本条例をつくる時にいろんなデータがあったんですけども、要するにばらばらなんですよね。それぞれが決めてるということですよ。だから理屈を言って、無投票がよくないっていうのが一つあります。だけどそれ以外は、もう幾ら理屈を言っても、結局もう決めるだけです、自由にね。だから、今回は過去減らしたときと違って無投票っていうことがあったっていうことは、そこで一つ理由がプラスアルファされたということかなと思いますが、この状態で前へ進んだら全然結論が出ないような気がして、委員長大変だと思いますけれども、正直私も皆さん、多かれ少なかれ減らす方向で何となく一致してるのかなと思ってましたけど、違いましたね。単なる私の感想ですけども。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

そういう、あくまでも日域委員の主観でございますので、それが結論時期になりますとどういうふうになるか分かりませんので、そのための今からの協議の始まりでございますので、その辺のところはじっくり考えていただきまして、協議していただいたらと思います。

それと、今日もうかなり時間がたってまいりましたので、今のこのアンケートの件だけでも結論を出したいんですが、するのかないのか、それぞれの結論を出したいんですけど、どうでしょう。

(発言する者あり)

○網谷委員長 いや、議員、どうしましょう。無記名・記名は、先ほど北地委員が言われたように無記名でもよろしいし、記名でもよろしいし、それをまず次の2番目に決めていただければと思いますが、まず16名の方にお伺いをするということは、どうでしょうか。よ

ろしいですか。

副委員長。

○西村副委員長 いろいろ皆さんの意見があるようで大変だと思うんですが、委員長が苦勞してますので、正副委員長でもう一回協議をして、今日の意見を各会派に持ち帰られて、アンケートも含めてこういう意見が出て、これでという話をしてもらって、次回でそういう方向性、来年の令和4年10月までにどういう方向に行くんか、それからどういうものをするんか、どういう資料の取り寄せるんかというのを、もう一回各会派で検討いただきたいと思います。

それはどういうことかといいますと、2年前の選挙で無投票と想定した人は、皆さんいらっしゃいましたか。うわさで思っただけでしょ。みんな選挙の準備しとるんですよ。たまたま、結果が無投票。誤解のないように。もともと、1年も2年も前から無投票、無投票言う市町はありますよ。大竹市は違いますから。そこを結果だけに基づいて、2年も経過しましたがどうするかと言うたら、2年先にまた次の選挙、それぞれ皆さん控えたときに、前回がこうじゃったからこの程度でいいだろうという選挙の運動はしないはずですよ。

だから、もう一つ自分の経験で言わせてもらえれば、議員の定数は、誰が喜ぶかよう考えてください。攻撃する議員が少なければ少ないほど、執行部はやりやすいんですよ。だから議員定数というのは物すごく各市町の議会にとっては重要なポジション。ただ単に減らせない。

それで、一部歳費のことがあります、歳費のことはそれは別問題。議員が減ったから増やす、増えたから減らす、そういう問題じゃないんですよ。あくまでも、私が最初の意見で言ったように、開かれた議会。これは議員の声が行政に伝わるかという、これが開かれた議会。2つ目に、市民参加を推進する議会。これは議員がさきに言われたように、減らすか減らさないかを考えた中でそういう思いがある。それで最後に、市民に信頼される議会。これは議会の資質、本質なんですよ。やっぱり議会として執行部と両輪で行く以上は、きちっと言えるような、私は議会をつくるべきだと思っております。

委員長が再三苦慮してますので、今日のところは委員長がどう判断されるか分かりませんが、そういうところで、もしできればもう一度、皆さん、各会派で検討いただきたいと思います。個人の意見はもう既に出ていますので、その点でいかがでしょうか。

○網谷委員長 ありがとうございます。

今、副委員長が言われたことに対して。

小中委員。

○小中委員 いや、別に反論するわけじゃないですけど、私は結果が全てだと思います。それがどうのこうのと言っても、もう厳然たる無投票という結果の前に、何を言い訳したってそんなものは成り立たないので、それを無視してなんだかんだと。

だからそのアンケートをする・しないは、その各会派に持ち帰って次回決めるんやったら、それはそれで結構ですので、ただその無投票になると思ってるのか思っていないのか、そんなことはどうでもええことで、結果の、無投票という結果が一番重たいんであって、それを無視して何かを言うっていうのは、全く意味のないことだと私は思います。

だから、その委員長が苦慮されているのであれば、まだその今すぐどういうっちゅうか、今はあくまでも傾向を知りたいということなんであって、それでどうのこうのっちゅうわけじゃないわけだけど、各会派に持ち帰って、次回アンケートをするかどうか決めるっていうんだったらそれを決めていただければ、私はそれでいいと思います。

○網谷委員長 ありがとうございます。

北地委員。

○北地委員 次回というのは、いつになるんですか。

(発言する者あり)

○網谷委員長 一応こういう予定になっております。

北地委員。

○北地委員 思いましたのは、そのぐらいの案件ならこの委員で、多数決で決めればいいのかと。わざわざ持ち帰らなくても。委員会自体の回数もそんなにないわけなので、こんなことで手間取ったとったら、全然前へ進まないと思うんですよ。委員で選ばれて出とるんだから、その辺ぐらいの権限は持たせてもらってもいいんじゃないかなと思います。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。そのとおりでございます。

副委員長がしっかり協議をして、また持ち帰ってということが出ましたので、私も副委員長と、まだ話の中で出てないんですが、今回初めてアンケートという言葉が出ましたので、それで皆さんの意見を聞きたいということなんで、アンケートだけはやる方向でよろしいですか、それじゃ。

北地委員。

○北地委員 アンケートの内容を決めてから。内容があまりにも答えを出すようなアンケートだったら、私も反対かなと。今、正直私、迷っているところです。一番最初議員改革、2年前に委員にならせてもらったときに、議員定数削減、一発目の僕の発言のときに言わせていただきました。

それから2年間、今議員やらせていただいて、さあ定数削減が本当にいいのか。今、正直迷っているところなので、そういうオブラートに包んだアンケートならば別にやる必要はないかなと思って、多分ほぼ、もちろん答えを出される議員さんもおってでしょうけど、私はもう正直、今全く答えが見つかってない状態です。だからいろんなところの意見を参考にしたり、市民の声を、大竹市民ですよ、大竹市民の声を聞いたりして決めたいと、私自身は思ってます。

○網谷委員長 ありがとうございます。

なかなか決めづらいんですが、今、副委員長の案もありますしね。どうでしょうか、もう堂々巡りみたいな感じになるんですが。挙手という手もございますが、次回に持ち越してもそんなに時間は取らんと思うふうなやり方を、私はしていきたいので。

日域委員。

○日域委員 要らんことかもしれませんが、今、中国新聞の方もいますけど、アンケート来ましたら、アンケートの設問が、マスコミが見てる地方議会の姿を表している気がするん

ですけども、やっぱりいろんな意味で存在感を示そうと思ったら、やっぱり、お、すごいねと、こういうことで始めたんかと市民が振り返ってくれるようなことをしないといけないと思うし、それが、じゃあわしも選挙出ようと思ったりすることにも、結果的につながるかもしれませんけれども、そういうのも含めて、だから無投票がいけないっていうのは、それはおなかが痛いっていう感じですよ。ほんでおなかが痛いのは痛いで、それは治さんといけんけども、そのもとに、あんた不健康よねって、そしたら健康に気をつけにゃいけんやないかっていうのが、もっと大きな意味での議会の存在感というか、両方あると思うんですけども、どちらも大事ですからね。存在感があるように持っていかなくちやいけないし、でも目の前に現象があれば、よくない現象があれば、それはそれでそこにピンポイントで対応しなくちやいけないしっていう、両方するべきだろうなという気がしますけどね。アンケートはよろしくをお願いします。

○網谷委員長 時間もかなり過ぎてまいりましたので、アンケートの件は、先ほどの副委員長の発表どおりに、しっかり正副委員長、議長も交えてですが、結論出したいと思います。

次回は12月8日水曜日ですね、基地周辺対策特別委員会の後に行う予定になっておりますので、あまり時間を取らないようにということの問題に対しては、皆さんの意見を聴取したいと思います。

この件に関してはこの程度でよろしいでしょうかね。よろしいですかね。

小中委員。

○小中委員 アンケートの、どういうアンケートを採るかによって。

○網谷委員長 ですから、それはしっかり協議しますので。

○小中委員 そうですか。

○網谷委員長 よろしいですかね、この件に関しては。

原田委員。

○原田委員 今回のアンケートを採るって、副委員長と委員長で決められるのは分かったんですけど、次回ですよ。今からもしかしたら言われるのかも分からないんですけど、そのアンケートをどうするかっていうのが次回決まるわけですよ。決まっても、そこで今からじゃあアンケートを採りますって言って、その次のまた話になると思うんですけど、次、何かその、何をどのようなお話。

○網谷委員長 ですから、それを一つずつ、また一つ、その件に関してもまだ結論が出てないので、それから、最初に言いましたとおり、とにかく令和4年10月の委員会では結論を出す方向で、私自身おりますので、その時期に迷われることがありましたら週に一遍でも、毎日でもやりますので、その辺のところは了承しておってください。タイムリミットは10月の委員会に、私自身考えておりますので、その辺のところはあまり計算しなくて結構かと思います。

よろしいですかね、この件に関しては。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○網谷委員長 それでは、日程の第1はこれぐらいに、今日はしときます。

その次、日程第2のその他でございますが、何かあります。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○網谷委員長　ないようでしたら、私のほうから。

さきの11月8日ですかね、決算特別委員会がございまして、それで今回、決算審査と議員提案についてのこの議題に対しまして、今回は試行の段階ということで、議員提案は断念ということに決まりました。それによりまして、今回委員会の中で、決算特別委員会の中で委員長報告が入るか入らないか、これはまだ決まっとるか決まってないかもよく分かりませんが、そういう意見もございました。

そういうことからして、この議会改革特別委員会といたしましても、決算審査と議員提案については検証の必要性がかなりあるというふうに、私自身感じましたので、これはすぐにやってもよろしいんですが、そうは言っても来年の決算特別委員会に間に合いますように、来年の4月ぐらいから協議したいなと思います。

ほとんどもうこちらのほうは前委員会のほうで、格好、型だけは決まっておりますので、そんなに時間はかからないと思いますが、ある程度検証しながら、また次の決算特別委員会に向けて、議員提案といった形で出されればなと思いますので、こちらのほうは今すぐというわけではございませんが、また議題に乗せる気持ちでおりますので、その辺のところ、よろしくお願いいたします。

今の件に関しましては、よろしいですかね。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○網谷委員長　それじゃあそういうことで、今日の議会改革特別委員会は、この辺で閉会といたします。

皆さん、お疲れさまでした。

11時52分　閉会